

## 塚脇F1号墳の出土遺物

# 装身具

耳飾りは棒状の銅を環状に曲げ、金や銀で表面を覆ったもので、9点確認されています。

大形で環の直径が約3cmのものが7点、細身で直径が約2cmのものが2点あり、この細い方の1点は今も金色に輝いています。

ガラス小玉は、直径3.5mm～4mm、厚さが約2mmのものがほとんどで、いずれも中央に孔があり、ここに糸を通してつづり、ネックレスとして使用していました。合計40個を確認しており、大半が淡青色や濃紺色である一方、濃緑色の1個は直径が5.6mmと最大の大きさです。

琥珀玉は2点みつかっており、同様にネックレスに使用されたものとみられます。



装身具を身に付けた様子(推定)



耳飾り



ガラス小玉



琥珀玉